

第 20 回 日本給食経営管理学会学術総会 実践活動報告

日本女子大学 松月 弘恵

(前 研究推進委員会、産学連携委員会 委員長)

第 20 回 日本給食経営管理学会学術総会 (2025 年 10 月 11 日・12 日)より、実践活動報告が一般演題とは別に設けられ、1 日目には 7 演題、2 日目には 6 演題の計 13 演題が発表されました。これは会期中の一般演題・実践活動報告計 55 演題の 24%に当たり、初めての取り組みに対して多く会員の皆様にご協力いただきました。当日は発表内容の審査が行われ、以下の 2 演題に優秀演題賞が授与されました。

- ・受託保育施設での適塩活動の推進 ～適塩教育と適塩味噌汁の提供～

我妻美希 氏 シダックスフードサービス(株)

https://www.shidax.co.jp/corporate/press-release/2025/1127_2/

- ・病院給食におけるニュークックチルシステム導入による労働環境の整備とその効果

小宮山ちあき 氏 グリンハウスグループ 株式会社グリーンヘルスサービス

<https://www.greenhouse.co.jp/topics/2025/20251118/>

近年、学術総会ではコントラクトフードサービス企業や多くの企業の方々にご参加いただき、交流を深めています。これも実践活動からエビデンスを構築しようとする本学会の特徴でもあります。しかし学術側と産業側では同じ給食を生業としても、置かれている環境や文化の違いから、共同研究はやや障壁の高いものでした。しかし今回は、スムーズな連携に繋げるために、以下の 2 つの戦略を立てました。

1. 第 20 回学術総会「実践活動報告」の発表に向けた研修会

学術総会での実践活動報告の意義と手順をご理解いただくために、4 月 22 日(火)に(公社)日本給食サービス協会と(一社)日本給食経営管理学会の産学連携委員会が共同で、オンラインとオンデマンドにより研修会を開催しました。申し込みは 61 名、企業からも 13 社のエントリーがありました。また、2024 年度の学術総会での発表者の事例報告もあり、参加者を対象としたアンケート結果も好評でした。

2. 産学連携委員会の委員によるサポート

当日の研修会では、委員の青木るみ子先生(滋賀県立大学)と池田昌代先生(東京農業大学)より、「学会発表のための抄録作成のポイント」の解説がありました。その後、発表を希望する 3 演題に対して、お二人から抄録作成や発表に至るまでのサポートをいただきました。

第 21 回学術総会においても、実践活動報告は特に注目されるとともに、学会でもそのサポート体制の組織を構築しました。研修会は今年度も予定されています。これからもみなさんの積極的参加を期待するとともに、実践活動報告のエビデンスとして、社会貢献のために発信していきましょう。